

2016年4月3日川越教会

## 信 仰 の 特 色

加藤 享

### 【聖書】ヨハネの黙示録1章1～8節

イエス・キリストの黙示。この黙示は、すぐにも起こるはずのことを、神がその僕たちに示すためキリストにお与えになり、そして、キリストがその天使を送って僕ヨハネにお伝えになったものである。ヨハネは、神の言葉とイエス・キリストの証し、すなわち、自分の見たすべてのことを証した。この預言の言葉を朗読する人と、これを聞いて、中に記されたことを守る人たちとは幸いである。時が迫っているからである。

ヨハネからアジア州にある七つの教会へ。今おられ、かつておられ、やがて来られる方から、また、玉座の前におられる七つの霊から、更に、証人、誠実な方、死者の中から最初に復活した方、地上の王たちの支配者、イエス・キリストから恵みと平和があなたがたにあるように。

わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に、わたしたちを王とし、御自身の父である神に仕える祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン。

見よ、その方が雲に乗って来られる。すべての人の目が彼を仰ぎ見る、／ことに、彼を突き刺した者どもは。地上の諸民族は皆、彼のために嘆き悲しむ。然り、アーメン。神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

### 【序】聖書の素晴らしさ

主イエス・キリストの復活を祝うイースターも終わり、4月になりました。教会は2週間前に定期総会を行い、その申し合わせに基づいて今日から2016年度の歩みを踏み出しました。先ず教会員50人の群れになることを目指して、祈りを合わせて前進して参りましょう。

宗教では、よって立つ根拠としての**正典文書**が重要な役割を果たしています。正典が確立していないと、その宗教は時間の経過と共に弱体化していき、影響力を失います。

**キリスト教**はユダヤ民族の歴史を通じて生まれ、保持されてきた**ヤーウェ信仰**（ユダヤ教）を母体として、世界の片隅ユダヤでの**ナザレのイエス**の3年余の伝道と十字架の死と復活によって生まれました（西暦30年頃）。

遺された弟子たちは、復活された主イエスのご命令に従って、使徒たちを中心に世界宣教を開始すると共に、イエス・キリストの宣教と十字架と復活を記した**福音書**と、使徒たちの**宣教文書**を新たに結集して、**独自の経典**を作成しました。そしてユダヤ民族の歴史のなかで生まれた律法・預言書・諸書を、**神による古い契約の書**（即ち旧約聖書）、彼らが作成したキリストによる**神の新しい契約の書**を新約聖書と名付け、新旧併せて**キリスト教の正典**としました。

そしてローマ帝国による厳しい迫害の中でも成長し、西暦 392 年にはローマ帝国の国教となり、全世界に広まる宗教になっていきますが、これも**聖書という優れた正典**を持ったからにほかなりません。

弟子たちは新約聖書でこう述べています。「神は**かつて**、預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたかが、**この終わりの時代**には、**御子によって私たちに語られました**。——御子は**神の本質の完全な現れ**であって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられます。」（ヘブライ 1：1～3）。「実に、**信仰**は聞くことにより、しかも、**キリストの言葉を聞くことによって始まる**のです」（ローマ 10：17）。

**聖書の素晴らしさ**とは、イエス・キリストの宣教、十字架の死と復活を通して語られた**神の救いの福音**の素晴らしさです。この神の語りかけを、聖書全巻を通して聞きとり、信仰を養い、キリストの福音を身近な人々に、また世界の人々に証して参りましょう。

## 【1】ヨハネの黙示録を読むに当たって

さて私たちはバプテスト連盟が出版している「**聖書教育**」を参考にして、礼拝・分級・夜の祈祷会で聖書を読み進めています。4月5月の2か月間の聖書箇所は、新約聖書の最後の書**ヨハネの黙示録**です。この黙示録は、福音書ほどに親しまれていない書です。それは**黙示文学**という**独特の形式**で書かれているので、その表現が私たちにとってなじみがなく、直ぐには理解できないからです。ですからなおさらこの機会に**ヨハネの黙示録**を通読して、私たちの信仰を豊かにする機会にいたしましょう。

黙示録とはどのような文書なのでしょう。先ず聖書教育の説明をそのまま引用いたします。「**黙示**とは、**覆いを取り除かれること**を意味します。隠されていた**神さまの御心**が、イエス・キリストによってヨハネに開かれていきます。迫害される者と神に敵対する者に対して、神さまが行おうとされている**ご計画**

は、理不尽な苦痛と悲しみの中で、試練に**必死に耐えている**キリスト教会にとって、**大いなる励まし**であり、**希望**そのものでした。

ヨハネは、当時広く読まれていたユダヤの**黙示文学**の形式に従って、見たこと聞いたこと、体験したことを書きとめるようにと命じられます。黙示文学とは、**独特な描写や表現**を意図的に用いて、**意識のある者にだけ**伝えるべきことを分からせようとする文学形態です。ですから黙示録の個々の表現に深入りして解釈しようとする、かえって聞くべきメッセージを損なう結果ともなりません。注意が必要です。」

さて、**主イエス・キリスト**がローマ帝国の総督ピラトによって**十字架刑**に処せられたのは、**西暦 30 年頃**のことでした。その後、皇帝ネロ（54～68 年）の迫害によって**ペトロ**も**パウロ**も殉教の死を遂げました。次いで皇帝ドミティアヌスの代（81～96 年）にも激しい迫害があり、この黙示録を書いた長老の一人**ヨハネ**は地中海の小島パトモス島に流刑されました。

1 章 9～11 節を読んでみましょう。「わたしは、あなたがたの兄弟であり、共にイエスと結ばれて、その苦難、支配、忍耐にあずかっている**ヨハネ**である。わたしは、**神の言葉**と**イエスの証し**のゆえに、パトモスと呼ばれる島にいた。ある主の日のこと、わたしは“霊”に満たされていたが、後ろの方でラッパのように響く大声を聞いた。その声はこう言った。「あなたの見ていることを**巻物に書いて**、エフェソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアの**七つの教会に送れ。**」

こうして巻物に書かれた手紙が諸教会に送られ、更にヨハネに示された神の言葉が書きつづられて、黙示録としてまとめられたのでした。

## 【2】イエス・キリストとは

さて 1 章 1 節の冒頭の言葉に注目しましょう。「**イエス・キリストの黙示**」この黙示は、**神がキリストにお与えになり**、そして、**キリストが僕ヨハネにお伝えになった**ものであると述べられています。イエス・キリストについての黙示ではなく、イエス・キリストを**通して**、私たちに告げられた**神の言葉**と**イエス・キリストの証**なのですね。そこでそのイエス・キリストがどのようなお方であるかを、4 節以下に言葉を変えて、繰り返し替えされているのです。順を追って見て参りましょう。

- 1) **今おられ、かつておられ、やがて来られる方。**  
現在・過去・将来にわたって、永遠に変わりなく存在されるお方です。
- 2) **玉座の前におられる七つの霊。**  
玉座とは神の座。七つは完全数ですから七つの霊とは完全な霊、即ち神の霊。キリストは神と共におられる神の霊です。
- 3) **証人・誠実な方。**  
ナザレのイエスという人間になり、「わたしを見た者は、父を見たのだ」(ヨハネ 14:9) と言い、神の真実・誠実な証人となってくださいました。私たちはキリストの証によって、神を正しく知るのであります。
- 4) **死者の中から最初に復活した方。**  
私たちは復活によって、神だと信じることができました。もしも復活されず、朽ち果ててしまわれたのなら、私たちの信仰は空しい信仰となります。
- 5) **地上の王たちの支配者。**  
キリスト教徒を迫害したローマ帝国の皇帝さえも、遂には屈服して信徒になりました。
- 6) **私たちが愛し、御自分の血によって罪から解放して下さった方。**  
極悪非道な犯罪者の受ける十字架刑を自ら受けて、どのような罪をも我が身に引き受け、ご自身の血をもってその罪を清めて下さった救い主です。
- 7) **私たちが王とし、祭司として下さった方。**  
信じて救われた私たちによって神の王国をつくり、私たちが神に仕える祭司にしてくださいました。
- 8) **見よ、その方が雲に乗って来られる。**  
栄光の象徴としての天的な乗り物(雲)に乗って下って来られるキリストを、地上の全ての者が仰ぎ見ます。十字架で息を引き取られたキリストの死を確認するために、ローマ兵の一人が槍で突き刺しました。その兵卒は、キリストが栄光に包まれて天から下って来るのを仰ぎ見たら、どれほど恐れおののくのでしょうか。否、彼ばかりでなく、総督ピラトも大祭司たちも、群衆たちも、キリストを十字架にはりつけた全ての者が皆、自らの罪に恐れおののき、嘆き、悲しむのです。

### [3] アルファであり、オメガである

今日の聖書の箇所を締めくくり、8節をもう一度よく読み返してみましょう。「神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。**わたしはアルファであり、オメガである。**」

**アルファ**はギリシャ語アルファベットの**最初の文字**で、**オメガ**は**最後の文字**

です。即ち神が**万物の初め**であり、また神が**万物の終わり**であるという信仰です。聖書は「**初めに**、神は天地を創造された」という言葉で始まりました。そして「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは**極めてよかった**」という言葉で創世記第 1 章は終わっています。しかしその世界の管理を委ねられた**人間の罪深さ**が、世界を今日このようにしてしまいました。

しかし聖書 66 巻の最後の書**黙示録**は、この世界が**新しい天と新しい地の再来**をもって終ると記しています。「もはや**死**はなく、もはや**悲しみも嘆きも労苦**もない」(21 章)。「もはや**呪われるものは何一つない**」「見よ、**わたしはすぐに来る**。」「わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして最後の者。初めであり、終わりである」(22 章)。

たとえ私たちの罪深さがどれ程大きくても、**初めに**世界を極めて良いものとして創造された神は、**主イエス・キリスト**をお遣わしになって、**終わり**も世界を極めて良いものにして締めくくって下さるという信仰です。ではその終わりは何時くるのでしょうか？

ヨハネはこの黙示録の冒頭に、「この黙示は**すぐにでも起こるはずのこと**」「**時は迫っている**」と書いています。これは**神の時間**における**すぐ**、すなわち**必ず**来るけれども、それは**神が定めた時**であり、私たちにとっては**突然に起こる時**だと言う意味でしょう。主イエスは弟子たちに「その日その時は**だれも知らない**。目を覚ましていなさい」(マルコ 13 : 32) とおっしゃいました。

またペトロは「主のもとでは、**一日は千年**のようで、**千年は一日**のようです。或る人たちは遅いと考えているようですが、—— 1 人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。主の日は盗人のようにやってきます」(Ⅱペトロ 3 : 8 ~) と書いています。**時間**は私たちが持っているものではなく、**神の御手にある**のです。

ですから「アーメン **主イエスよ、来てください**。主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように」という言葉で、聖書は終わっているのです。

### 【結】今おられる神と共に今日を生きる

その神が「**今おられ、かつておられ、やがて来られる方**」と言われていました。紀元前 13 世紀頃の昔に、イスラエルの民はエジプトで奴隷状態にされていました。神は民の悲痛な叫びに答えて、エジプト王と交渉させるために、**モーセ**を

お召しになりました。その時モーセは**神の名**を尋ねました。その答が「わたしは**ある**というものだ」(出エジプト3:14)でした。英語で言えば **I am who I am** です。

そうです。神は**モーセと共にいて**、彼に与えた**任務を遂行**させてくださいました。イスラエルの**民と共にいて**、彼らをエジプトから**脱出**させて下さいました。神はこの**私とも今日共にいて**、助け、守り、導いて下さるお方なのです。

ですから、**今**にたつて**過去を振り返**ると、ああ、あの時も神は私と共にいて下さったのだと言うことが分かってきます。またこれからの**将来を案じる**時にも、その時には神が必ず助けに来て、共にいてくださると信じて、前進していただけるのです。ですから、私と共に生きて下さる神を信じて、神の御心を尋ねつつ、御心に従って**今日を生きる**ことが大切なのではないのでしょうか。

主イエスは「**わたしを見た者は、父を見たのだ**」とおっしゃいました。私たちは聖書によって、救い主**イエス・キリスト**を良く知るようになりました。ですから全能の神、深い愛の神、罪を赦し清めて下さる神、永遠の命を与えて下さる神を知っているのです。信じています。そして今、礼拝を捧げています。

さあ、信仰を新たにして、持ち場に帰りましょう。共に生きて下さる**主なる神・キリスト**を仰ぎみつつ、主より託された務めに**ベストを尽くして**、一日、一日を送って参りましょう。日々に聖書を読み、祈りつつ歩んで参りましょう。

祈ります： 主なる神さま、今日はヨハネの黙示録の序文から、あなたの語りかけを聞き取る機会を与えてくださって、感謝します。あなたが初めであり、終わりであることを感謝します。今日私と共に生きて下さっている恵みを感謝します。この信仰の恵みを、愛する家族や友人と分かち合う者にしてください。命の糧である聖書を世界中の人々に届ける働きにも献金する信仰をお与えください。牧師・宣教師を送り出す教会になりますようにお導きください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン